

柱立て1 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）について

- (1) 「大学入試センター試験」から「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」へ切り替える入試改革全般において、その改善効果についてうかがいます。
- 学力の3要素を多面的・総合的に評価する今回の入試改革は、各大学の個別選抜の改革も含め、その効果は期待できる
 - 各大学の個別選抜が、多面的・総合的な評価に基づく入試を目指しながらも、時間的・人的な制約から、改革趣旨を十分に生かすことは難しいと思われ、現状では期待できない
 - 具体的な実施方法にまだ不明の点があるので、どちらともいえない
- (2) 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を、複数回実施することは、*CBT や*IRTなどを導入する環境が整わないと非常に難しく、当面は困難と思われ、それでも将来的に複数回実施が可能になったとしてうかがいます。
- 注) CBT (Computer - Based Testing) 紙媒体でなくコンピュータによる出題・回答の方式
IRT (Item Response Theory 項目反応理論) 難易度の異なる複数の試験の結果を比較するための得点調整法の一つ
- 受検期間が高校の教育活動に支障ない程度に短く（例えば3年3学期の期間内で）複数回受検できる機会が生徒に与えられるのならば賛成である
 - 受検期間が多少長期化しても、（例えば3年2学期末から3学期の期間内で）複数回受検できる機会が生徒に与えられるのならば賛成である
 - 生徒にとって複数回受検できることは歓迎すべきことであり、受検期間にこだわらず賛成である
 - 生徒にとって早期の受検準備や教員にとって教科指導計画の短縮化などの負担が大きくなるので、複数回の実施には賛成できない
 - 具体的な実施方法に不明の点があるので、いずれともいえない
- (3) 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」に国語・数学の記述問題を取り入れる計画です。当面は国語を優先し短文記述式の問題を導入する予定です。記述式の問題は採点期間が長く必要と言われています。記述式問題の実施についてうかがいます。
- 実施形態について
 - 記述式でも短文の問題なので、従来どおりマークシート式問題と同日に実施するのがいい
 - 記述式の問題の採点時間に配慮して、マークシート式問題とは離れた別な日に実施するのもやむを得ない
 - 具体的な実施方法に不明の点があるので、いずれともいえない
 - ①でbと回答した方にうかがいます。記述式を別な時期に実施する場合は、マークシート式問題を現状の1月中旬とすれば、高校の立場で考えるといつ頃まで遡れると思いますか。
 - 1月上旬
 - 12月下旬
 - 12月中旬
 - 12月上旬
 - 11月以前
 - 記述式の問題を3年2学期に実施した場合、教科指導や部活動、学校行事に出る影響についてうかがいます。
 - 高校3年生の諸活動に、悪影響が生じる
 - 高校3年生の諸活動に、少し制約が生じる
 - 特に問題ない
 - いずれともいえない
 - 実施方法についてご意見があればお書きください。()

(4) 最終報告においては「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」について、知識・技能に関する判定機能に加え思考力・判断力・表現力を構成する諸能力の判定機能を強化すると提言しています。また、文科省よりたたき台として記述式の問題のイメージ例が示されましたが、文字数の多い記述式の問題の出題も提言されました。現時点でそれらの提言は新学習指導要領からの導入となりましたが、平成 32 年度の新テストでは、当初は短文記述式の国語の問題から導入する方向性が示されています。このような平成 32 年度の新テストへの対応についてうかがいます。

① 対応準備について

- a 新しいテストに向けて、すでに校内で委員会等を設けてその準備・対応の検討を始めている
- b 新しいテストに向けて、来年度から委員会等を設けて動き出す予定である
- c 新しいテストに向けた、委員会等を設ける予定はまだ立てていない

② 指導方法・指導体制について

- a 校内での指導体制や指導方法を工夫することにより対応できる
- b 校内の指導体制では、新テストに対しての十分な指導は難しい
- c 具体的な問題・内容が分からないので、どちらともいえない

(5) 英語においては、四技能を総合的に評価できる問題の出題や、民間の資格・検定試験を活用することで英語の能力をバランスよく評価することを目指します。

① 英語の試験の全体として、民間の資格・検定試験をどの程度活用するかについて、うかがいます。

- a 民間の検定試験等に頼らず、大学入学希望者学力評価テストの中で英語の独自問題を作るべき
- b 民間の検定試験等を活用しながら独自問題も作成し、総合的な評価を行う方がいい
- c 全面的に民間の資格・検定試験を利用する方がいい

② 民間の資格・検定試験の活用について、うかがいます。

- a 既存の検定は高校生の英語力を図るには全体として難易度が高く、受検料も高額なものも多いので、高校生に適した検定を、新しく民間に策定させるのがいい
- b 既存の資格・検定試験の中から文科省が選定し、その資格・検定試験を受験することで、どの大学でも受検できるようにするのがいい
- c 各大学・学部の特徴に応じて、大学側が自由に指定した資格・検定試験で実施すればいい

(6) CBT 方式での PC の配備等の課題もありますが、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施場所についてうかがいます。

- a 高校会場での実施がいい
- b 大学入試センター試験に準じた会場での実施がいい
- c 高校・大学会場併用での実施がいい
- d その他（ ）

ここからは、各大学における個別選抜についてのご意見をうかがいます。

(7) 小論文・プレゼンテーション・集団討論・面接など選抜方法の多様化に対し、大学側としての体制が整えられるか、危惧されるところです。その点についてうかがいます。

- a 大学入学者選抜の改革の趣旨を尊重し、全ての国公立大と私立大において新たな入学者選抜を実施してもらいたい
- b 具体的な実施条件が整った大学から、新たな入学者選抜を実施すればいい
- c 具体的な実施条件を整えられない大学が、現実には相当数あっても仕方ない

(8) 小論文・プレゼンテーション・集団討論・面接など選抜方法の多様化に対し、高校側としての指導体制を整える、このことについてうかがいます。

- a 現行の教育課程においても、工夫することにより何とか対応できる
- b 現行の教育課程においては、時間的な余裕があまりなく、十分な指導は難しい
- c 現実的な指導時間や教員の指導力の問題があり、外部の教育産業に生徒が流れる可能性が大きい
- d 具体的な問題・内容が分からないので、何ともいえない

- (9) 個別選抜の実施時期について、うかがいます。AO・推薦入試、一般入試の在り方を見直し多面的・総合的な選抜実施の方向性が示されました。きめ細かな入学者選抜を実施するためには、人的・時間的にも大学側も相当な負担増になることが想定されます。
- 大学側は入試方式・形態を改善努力し、今まで同様2月以降に個別選抜を実施するのが望ましい
 - 大学側も時間が必要となる状況も理解でき、私大・国公立大の個別選抜の入試スケジュールが繰り上がって、1月からの実施となるのもやむを得ない
 - 現時点では、何ともいえない
- (10) AO入試や推薦入試について学力不問の流れを改善し、多面的・総合的な選抜への方向性が示されました。さらに国大協は、「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」(平成27年9月)において平成33年度までに入学定員の3割を目標に拡大すると公表しました。今後は調査書や推薦書の内容なども詳細な記入が求められ、多くの提出書類を作成する必要がでてきます。
- 高大接続改革の趣旨を尊重し、推薦入試だけでなく一般入試へも詳細な提出書類を作成すべきである
 - 推薦入試ならばともかく、一般入試においても様々な提出書類を作成するには高校現場として無理がある
 - 様々な大学がある中で、高校側が作成した提出書類全てに目を通し、評価することができるとは考えづらい。詳細な提出書類を作成する必要性を感じない
 - 具体的な調査書などの書式案が示されていないので、何ともいえない
- (11) 新しいテストは、記述式などこれまでのテストにない新たな出題や、大学の個別選抜ではエッセイやプレゼンやディベートなどの活用が考えられています。また、英語の四技能については、民間の資格・検定試験の活用も考えられています。受検生の立場では、学校だけの学習だけでなく、塾・予備校を活用する場面が増えると思われ、各家庭の経済力が、教育の機会均等や進学結果に影響を与えることが心配されます。各家庭の経済力が今まで以上に影響を及ぼすと思いますか。
- そう思う
 - ある程度そう思う
 - あまりそう思わない
 - そう思わない
- (12) 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」と新たな個別選抜が導入された場合の高校教育への予想される影響や問題点・要望について、ご意見があればご記入ください。
- ()
- (13) 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」導入までの改革スケジュールが提示されました。各学校において、新テストへどのように対応していくか、また生徒に対してどのような指導を行う予定か、お考えがあればお書きください。
- ()

柱立て2 高等学校基礎学力テスト(仮称)について

ここからは、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」についてうかがいます。

平成28年3月に出了た、高大接続システム改革会議の「最終報告」では、このテストの主目的を大学入試への利用ではなく、学校の教育改善に使用することとなりました。高校教育の質の確保・向上のため生徒の学習の達成度を把握し、その後の学習や教科指導の改善に役立てるものです。現行の教育課程において、テスト結果は当面、大学の入学者選抜で活用しない方針が示されました。これは、全高長の望む方向への転換でありました。この転換により、本来教育課程委員会でアンケートを採るべき内

容となったのですが、これまでのいきさつもあり、今年度は大学入試対策委員会の内容としてアンケートを実施させていただくこととなりました。このような経緯から、この柱立てについては、設問（2）以外は大学入試と切り離し、所属校の教育内容の改善という視点から回答してください。

- (1) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入についてうかがいます。
- a 「高校教育の質の確保・向上」のための新たなテストの導入は、成果を期待できる
 - b 高校側の指導改善に具体的にどう活かすかなど、課題が多く、成果を期待できない
 - c 高校側の指導改善にどう活用するか、大学側の利用方法などが不明解なので、どちらともいえない
- (2) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の活用についてうかがいます。
- 現行の教育課程において、テスト結果は当面、大学の入学者選抜で活用しない方針が示されましたが、今後の活用についてうかがいます。
- a テスト本来の趣旨と高校側の混乱を考えると、将来的にも大学の入学選抜に活用すべきでない
 - b 様々な大学の状況もあり、3年次のデータだけなどの制限を加え入学選抜の資料として活用することもやむを得ない
 - c 基礎学力テストの内容等が不明解なので、入学選抜への活用は何とも言えない
- (3) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」を、複数回実施することについてうかがいます。
- a 複数回受検できる機会が生徒に与えられるので、賛成である
 - b 3年次のテスト結果が、進学時の参考資料の一部となる可能性も残されている。生徒の準備負担（学習面・経済面）や教員の指導の負担が大きくなるなど、賛成できない
 - c どちらともいえない
- (4) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は、実施する学年や時期を設置者や学校が判断することができるとされています。実施方法についてうかがいます。
- ① テストの趣旨を考えたとき、個人でなく学校（学年）単位で受検させ活用したいですか
 - a そう思う
 - b そう思わない
 - c どちらともいえない
 - ② ①でaと回答した方にうかがいます。2, 3年次に学年単位で受検させる場合、様々な教育活動を考慮した場合、どの時期に実施したいですか。複数回答可
 - a 2年1学期
 - b 2年2学期
 - c 2年3学期
 - d 3年1学期
 - e 3年2学期
 - f 3年3学期
- (5) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」は平均的な学力層や学力面で課題のある層の基礎学力を把握し、また学習意欲の高揚を念頭に置いた出題を予定されていますが、その問題難易度についてうかがいます。
- a 高等学校卒業程度認定試験の難易度よりも、難易度を上げた出題でいい
 - b 高等学校卒業程度認定試験の難易度と、ほぼ同等の難易度の出題でいい
 - c 高等学校卒業程度認定試験の難易度よりも、難易度を下げた出題でいい
 - d その他（ ）
- (6) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の対象者は希望参加型ではあるが、原則学校単位の受検を基本とし、できるだけ多くの生徒が参加することが望ましいといわれています。
- ① 結果の取り扱いについて、学校や都道府県教育委員会に提供することになりました。また、順位を示すことなどによる学校間、都道府県間における比較はしないと示されました。
 - a 結果の提供方法・取り扱いについては、賛成である
 - b 学校単位を原則とすれば、いずれは学校間比較や他府県との比較が生じる恐れがあり、賛成できない

C : 基礎を付した4科目から2科目、及び基礎を付さない4科目から1科目を選択

D : 基礎を付さない4科目から2科目を選択

① 4単位科目は、高校での学習時期等を考慮して、選択問題を配置することを考えるとなっていますが、これについてうかがいます。

- a 選択問題を配置することいい
- b 選択問題を配置することではなく、出題範囲を限定するのがいい
- c 選択問題を配置せず、出題範囲を全範囲とするのがいい
- d いずれともいえない

② 理科の選択の方法のCタイプ（2単位科目2科目、4単位科目1科目）において「物理基礎、化学基礎、物理」のように同じ名前の科目を取ってよいことになっています。この場合、200点のうち150点が物理、50点が化学の分野となりますが、これについてうかがいます。

- a この選択方法を認めてかまわない
- b 3科目になってもよいかからこのような選択方法は認めるべきではない
- c どちらともいえない

③ 現教育課程における大学入試センター試験の理科の科目について、ご意見をお書きください。
()

(2) 大学入試センター試験の国語の問題は、教科書に掲載された作品は、学校で習った受験生と習わなかった受験生がいることから、公平性の観点で教科書に掲載されていない作品から出題されてきています。その結果、古典はオーソドックスな作品からはほとんど出題されていない現状があります。古典について教科書に掲載された作品を出題することについてうかがいます。

- a 教科書に掲載された作品を使うことは慎重にすべきである
- b 教科書に掲載されたものでも使ってもいい
- c どちらともいえない

(3) 大学入試センターは、前回のセンター試験から、会場ごとに全ての受験パターンに対応するのではなく、会場ごとに受験パターンを限定し、受験生の動きや問題の配付などにおける事故の防止を図りました。このことについてうかがいます。

- a 配付ミス等がなくなり、事故防止には効果的な改善であった
- b 同じ学校の生徒が異なる受験会場となるデメリットの方が大きい
- c どちらともいえない

(4) 現教育課程では「コミュニケーション英語Ⅰ」という科目が必修になりました。現在でも多くの大学で、大学入試センター試験のリスニングを課していますが、今後、大学入試センター試験だけでなく、個別選抜においてもリスニングを課すことについてうかがいます。

- a 大学入試センター試験でも個別選抜においてもリスニングを課すのがいい
- b 会場、放送機器等条件が揃えばリスニングを課したほうがいい
- c リスニングを課すことには慎重になったほうがいい
- d 現状と同じで、大学の判断でいい
- e いずれともいえない

(5) 現教育課程では、いわゆる「歯止め規定」が撤廃されました。個別選抜において、発展的な領域に属する問題も出題したいと考えている大学もあるようです。全高長では「学習指導要領に記載されている範囲を限定的に解釈した出題」をお願いしています。このことについてうかがいます。

- a 全高長の立場に沿って、発展的領域に属する問題は出題しないでほしい
- b 大学が事前に範囲を発表するなら、発展的領域に属する問題は出題してもいい

- c 大学が自由に出題すればいい
- d いずれともいえない

(6) 現教育課程における大学入試センター試験全般について、ご意見があればお書きください。
()

以上 ご協力有り難うございました